芦田川さかなマップ

2016年9月25日作成

凡例

- 平成17年
- 平成18年
- 平成19年
- 平成20年
- 平成21年
- 平成22年
- 平成23年
- 平成25年
- 平成26年
- 平成27年
- 平成28年
- 貴 きれいな川に住む魚など、芦田川にとって貴重な種類。

府中大渡橋

調査した場所
田畑の間に家がまばらにあるような場所で、比較的水はきれいである。川幅は広く、水の流れは平らである。川の中に枡がたくさんあり、草が茂っているため、水辺の生物にとって生きやすい環境だといえる。見つかる魚の種類が多く、アカザも見られる。川岸が整備され、川の中に入りやすくなっている。

アユ
本州全域に住んでいる。天然アユは減少しているため、琵琶湖などから稚魚を取り寄せて放流している。石の表面に付いている藻を食べる。中流に多くいる。

カワムツ
本州中部以西に生息しているが、現在では関東地方でも見られる。河川の上、中流や流れのゆるやかな淵に多くいる。なわばり意識が強く雑食性で昆虫や落ちなどを食べる。大きい1本の暗色の縦縞があるのが特徴。

オオクチバス（別名：ブラックバス）
北アメリカ原産で、今では国内のほぼ全域に分布している。止水や流れのゆるやかな河川に生息し、大きな口で魚類や甲殻類を食べる。体側から背にかけて不規則な暗斑があり、腹側が黄味を帯びた白色となっているのが特徴。特定外来種に指定されている。

カマツカ
本州中部以西の太平洋側に分布する。口が下向きについていて、くちびるが大きくのびる。口からえさを吸いとばかり、エラぶたから水を出しながら前進する。

タモロコ
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石があるようなところのよどみにいる。小さなおちょぼ口が上向きについている。すぐ興味深くかく水でしまう。石についている水生昆虫を食べる。

イトモロコ
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石があるようなところのよどみにいる。小さなおちょぼ口が上向きについている。すぐ興味深くかく水でしまう。石についている水生昆虫を食べる。

ズナガニゴイ
琵琶湖以西の限られた川にしかいない。川の中流から下流域に分布し流れのゆるやかな川底に石が砂にもぐって水生昆虫などを食べる。
普通のニゴイよりも体が小さいが頭と吻は長く、体側に小黒点の列がある。

ヤリタナゴ
北海道と南九州を除く各地に生息し、平野部の細流や用水路上部などの水の流れのある所にいる。ソウ類をよく食べマツカサガイやイシガイに産卵する。婚姻色で体幅が著しく狭く、背ビレに黒い斑点がある。

ドンコ
東北を除く本州全域に住む。中流から下流に多い。夜行性の傾向が強く、砂底を好み、小魚・エビ・カニ・水生昆虫を食べる。広島県内では減少しているが、芦田川水系では、比較的安定した個体群がいる。

ウナギ
太平洋側は北海道の日高地方以南、日本海側は石狩川以南の日本各地に分布する。背側は暗色で、腹側は白色、特別の斑紋はない。
春から秋にかけて水生昆虫類、小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類などを活発にとり、成長する。

ブルーギル
原産地は北アメリカ中東部一帯で、現在は日本各地に分布。幼魚は暗褐色の横縞が入る。エラぶたの上端に黒色の斑紋があるのも特長。

ギギ
本州中部以南、四国、九州の東部に分布し、比較的水はきれいで、石や流木、石垣などがあるところで見られる。背ビレと胸ビレのとげが発達していて、さされると激しく痛む。つかまえると胸ビレでギーギーなく。

アカザ
宮城県・秋田県以南の本州、四国、九州に広く分布する。水が比較的きれいな川の中流から上流下部の瀬の石の下や間にすみ、石のすき間をかいくぐるように泳ぐことが多い。背ビレに1本、胸ビレに1本、腹ビレに1本の大きなトゲがあるのでさされると痛い。芦田川水系での生息数はきわめて少ない。

ムギツク
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石があるようなところのよどみにいる。小さなおちょぼ口が上向きについている。すぐ興味深くかく水でしまう。石についている水生昆虫を食べる。

シマドジョウ
本州、四国、九州の一部に分布し、冷たく水のきれいな水域の砂底にいる。昼間はとけこむと現れる。おどろいたりすると砂によくもぐる。川底で小型生昆虫、底生藻類、有機物を砂と一緒に食べ、砂だけを出している。

コイ
日本各地に分布。
流れのゆるやかな淵などにすむ。岸辺の植物や浅瀬の水草などに産卵する。
雑食性で、底生動物のタニシやイトミミズ、水草などを食べる。

ナマズ
本州中部以西の限られた川にしかいない。川の中流から下流域に分布し流れのゆるやかな川底に石が砂にもぐって水生昆虫などを食べる。
普通のニゴイよりも体が小さいが頭と吻は長く、体側に小黒点の列がある。

ドジョウ
本州、四国、九州の一部に分布し、冷たく水のきれいな水域の砂底にいる。昼間はとけこむと現れる。おどろいたりすると砂によくもぐる。川底で小型生昆虫、底生藻類、有機物を砂と一緒に食べ、砂だけを出している。

ギンブナ
全国各地に分布する。
川の下流の泥沼や、平地の低湿地帯や沼地に生息する。雑食性で底生動物および藻類などのほかに、場所によって動物プランクトンなども食べる。ギンブナには、雄はいない。

タカハヤ
日本海側では富山県以西、太平洋側では静岡県以西の本州、四国、九州に分布し、上流部の植物の根周りなどでみられる。カロコがとても小さく、体表はタメヌメしている。

アブラハヤ
青森県以南～福井県、岡山県まで分布。全長15cmほどで、河川の上流域から下流域にかけて生息。タカハヤによく似るが、尾柄が細長い。また、体側の小黒点は側線付近に集まり、縦条を形成する。

カワヒガイ
濃尾平野以西から九州北西部の中下流地域に生息している。夏季には本流から水を引く用水路にも生息。体側に青や緑色などの輝きがみられる。動物食性体の雑食性。産卵はイシガイなどの二枚貝に行われる。

タイリクバラタナゴ
原産地はアムール川水系。1960年代に食用目的で移入。

ニシキゴイ
原産地は中国。食用目的で移入。

ヌマチチブ
琵琶湖以西の本州、四国、九州に分布し、河川中・下流域および湖沼に広く生息する。
稚魚で付着藻類から水生昆虫や遷下昆虫、底生動物や浮遊動物などを食べる。また、成長にともなって食性転換が起こる。雄は、産卵期には、婚姻色が出て、とてもきれいだ。

メダカ
本州以南に広く分布し、池、水田や用水、河川の下流域など、流れの緩い場所に生息する。
動物・植物プランクトンや水面に落ちた小さな昆虫などを食べる雑食性。近年は、水路のコンクリート化など開発が進み、次第に住み場が失われている。

コイ
日本各地に分布。
流れのゆるやかな淵などにすむ。岸辺の植物や浅瀬の水草などに産卵する。
雑食性で、底生動物のタニシやイトミミズ、水草などを食べる。

ヤリタナゴ
北海道と南九州を除く各地に生息し、平野部の細流や用水路上部などの水の流れのある所にいる。ソウ類をよく食べマツカサガイやイシガイに産卵する。婚姻色で体幅が著しく狭く、背ビレに黒い斑点がある。

ムギツク
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石があるようなところのよどみにいる。小さなおちょぼ口が上向きについている。すぐ興味深くかく水でしまう。石についている水生昆虫を食べる。

ズナガニゴイ
琵琶湖以西の限られた川にしかいない。川の中流から下流域に分布し流れのゆるやかな川底に石が砂にもぐって水生昆虫などを食べる。
普通のニゴイよりも体が小さいが頭と吻は長く、体側に小黒点の列がある。

ヌマチチブ
琵琶湖以西の本州、四国、九州の一部に分布し、冷たく水のきれいな水域の砂底にいる。昼間はとけこむと現れる。おどろいたりすると砂によくもぐる。川底で小型生昆虫、底生藻類、有機物を砂と一緒に食べ、砂だけを出している。

ドンコ
東北を除く本州全域に住む。中流から下流に多い。夜行性の傾向が強く、砂底を好み、小魚・エビ・カニ・水生昆虫を食べる。広島県内では減少しているが、芦田川水系では、比較的安定した個体群がいる。

ウナギ
太平洋側は北海道の日高地方以南、日本海側は石狩川以南の日本各地に分布する。背側は暗色で、腹側は白色、特別の斑紋はない。
春から秋にかけて水生昆虫類、小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類などを活発にとり、成長する。

シマドジョウ
本州、四国、九州の一部に分布し、冷たく水のきれいな水域の砂底にいる。昼間はとけこむと現れる。おどろいたりすると砂によくもぐる。川底で小型生昆虫、底生藻類、有機物を砂と一緒に食べ、砂だけを出している。

コイ
日本各地に分布。
流れのゆるやかな淵などにすむ。岸辺の植物や浅瀬の水草などに産卵する。
雑食性で、底生動物のタニシやイトミミズ、水草などを食べる。

ナマズ
本州中部以西の限られた川にしかいない。川の中流から下流域に分布し流れのゆるやかな川底に石が砂にもぐって水生昆虫などを食べる。
普通のニゴイよりも体が小さいが頭と吻は長く、体側に小黒点の列がある。

イトモロコ
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石があるようなところのよどみにいる。小さなおちょぼ口が上向きについている。すぐ興味深くかく水でしまう。石についている水生昆虫を食べる。

オイカワ
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石があるようなところのよどみにいる。小さなおちょぼ口が上向きについている。すぐ興味深くかく水でしまう。石についている水生昆虫を食べる。

メダカ
本州以南に広く分布し、池、水田や用水、河川の下流域など、流れの緩い場所に生息する。
動物・植物プランクトンや水面に落ちた小さな昆虫などを食べる雑食性。近年は、水路のコンクリート化など開発が進み、次第に住み場が失われている。

コウライニゴイ
原産地は中国。食用目的で移入。

カワヨシノボリ
中部地方以西の西日本に住む。
上流中流の流れのゆるやかな所に住み、藻類や小型の水生昆虫を食べる。止水域ではなぜか生息できない。

ヌマチチブ
琵琶湖以西の本州、四国、九州の一部に分布し、冷たく水のきれいな水域の砂底にいる。昼間はとけこむと現れる。おどろいたりすると砂によくもぐる。川底で小型生昆虫、底生藻類、有機物を砂と一緒に食べ、砂だけを出している